

令和5年度 世界史Bシラバス

教科	地歴	科目	世界史B	学年	3	単 位 数	2	教 材 名	【教科書】 高校世界史改訂版（山川出版社）
									【副教材】 高校世界史基本用語問題集
									ツインズ・マスター（山川出版社）
									明解世界史図説エスカリエ（帝国書院）

1.学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2.年間計画

期	月	大単元（章）	学習項目	指導のねらい	時間
1 学 期	4 月	世界史への扉	①自然災害と人類 ②日本の年中行事・祭り与世界	(1)過去のできごとが現在の自分たちの生活と結びついていることを理解させる。教科書で投げかけられている問いに答えることを通じて歴史を学ぶ意義を気づかせる	1
		序章 先史の世界	①人類の出現	(1)人類の出現から文明の成立に至るまでの先史時代を概観し、獲得経済から国家の形成に至る過程を学び、歴史時代へのつながりを認識させる。	1
	5 月	1章 オリент世界と地中海世界	①古代オリент世界 ②ギリシア世界 ③ローマ世界	(1)オリент世界と地中海世界の特徴を気候・地形などと関連させてとらえるとともに、それが統合されて、西アジアとヨーロッパの原型がつくられていく様相を、歴史的・地域的にとらえさせる。	8
		2章 アジア・アメリカの古代文明	①インドの古代文明 ②東南アジアの諸文明 ③中国の古代文明 ④南北アメリカの文明	(1)南アジア世界の多様性を民族・身分制・社会構造・宗教・南北の地域差の視点から把握させる。 (2)古代文明の発生から春秋戦国時代の変遷を経て、さまざまな思想・文化が生まれたことをつかませる。 (3)統一王朝と周辺諸国が成立し、それらが政治的・文化的に結びついていたことを把握させる。 (4)先住民による南北アメリカ文明の形成とその特徴をとらえさせる	8
	6 月	3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	①草原の遊牧民の活動とオアシスの定住民 ②北方民族の活動と中国の分裂 ③東アジア文化圏の形成	(1)内陸アジアの地理的特質を理解し、台頭した遊牧民とその国家の動向をオアシス民の活動とともに捉えさせる。 (2)東アジアにおける北方民族の動向と、三国時代から魏晉南北朝という中国の分裂動乱の時代を総合的に捉える。 (3)隋唐帝国の国家制度や文化、日本を含む東アジア世界諸国の国家体制の整備やその動向をつかませる。	4
		4章 イスラーム世界の形成と発展	①イスラーム帝国の成立 ②イスラーム世界の発展 ③イスラーム文化の進展 ④イスラーム文明の発展	(1)イスラーム世界成立の背景とその特質、アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成をとらえさせる。 (2)貿易を重視し都市を背景に生まれたイスラームがアジア・アフリカの各地に広がり新しい文明を築く様相を把握させる。	5
		5章 ヨーロッパ世界の形成と成立	①西ヨーロッパ世界の成立 ②東ヨーロッパ世界の成立 ③西ヨーロッパ中世世界の変容 ④西ヨーロッパ中世文化	(1)ゲルマン人の移動後の西ヨーロッパに成立した封建社会の形成について概観させる。 (2)ビザンツ帝国の羽根井とその社会や文化、スラブ人と周辺民族の自立の過程を把握させる。	10
	7 月	6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	①トルコ化とイスラーム化の進展 ②東アジア諸地域の自立化 ③モンゴルの大帝国	(1)内陸アジアの世界におけるトルコ人の活動とイスラーム化の進展を把握させる。 (2)遊牧諸勢力の台頭や日本人を含めた東アジア諸地域の勢力後退、宋の興亡とその社会や文化の特色をつかませる。 (3)モンゴル帝国の興亡と、その活動が日本を含む諸地域世界に与えた影響とそ	4
		7章 アジア諸地域の繁栄	①東アジア世界の動向 ②清代の中国と隣接諸地域 ③トルコ・イラン世界の展開 ④インド・東南アジア世界の展開	(1)中華帝国を再現した明朝の動向とともに、朝鮮や日本など東アジア世界の状況を把握させる。 (2)清朝が形成した広大な領域支配やその社会・文化とともに、東アジア世界の動向を理解させる。 (3)トルコ・イラン世界に誕生したイスラーム帝国の動向と社会や文化について概観させる。	5
		8章 近世ヨーロッパ世界の形成	①ヨーロッパ世界の拡大 ②ルネサンス ③宗教改革 ④ヨーロッパ主権国家体制の形成	(1)ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、それに伴うヨーロッパ社会の変革の動きをつかませる。 (2)ルネサンスのもたらした芸術・思想・科学の変革の内容と意義を理解させる。 (3)宗教改革の理念とその拡大、カトリック教会の対応を理解させる。	6
2 学 期	9 月	9章 ヨーロッパ世界の動向	①ヨーロッパ世界の動向	(1)ヨーロッパ世界の動向を把握させる。	
10 月	10章 ヨーロッパ世界の動向	①ヨーロッパ世界の動向	(1)ヨーロッパ世界の動向を把握させる。		

11月	9章 近世ヨーロッパ世界の展開	①重商主義と啓蒙専制主義 ②ヨーロッパ諸国の海外進出 ③17～18世紀のヨーロッパの文化	(1)17～18世紀におけるヨーロッパ主権国家の動向を、重商主義と啓蒙専制主義を柱として捉える。 (2)ヨーロッパ諸国の植民地争奪と大西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組みを把握させる。	4	
	10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	①産業革命 ②アメリカ独立戦争 ③フランス革命とナポレオン	(1)イギリス産業革命とその背景と展開、産業資本主義体制の確立とその影響について理解させる。 (2)アメリカ独立革命の経過と、独立が与えた影響を捉える。 (3)アメリカ独立革命とフランス革命が近代民主政治に与えた影響について理解させる。	6	
	11章 欧米における近代国民国家の発展	①ウィーン体制の成立 ②ヨーロッパの再編 ③南北アメリカの発展 ④19世紀欧米の文化	(1)ウィーン体制の成立と、その体制下に広がったヨーロッパ諸国の自由主義とナショナリズムの運動について理解させる。 (2)クリミア戦争以降の国際秩序の動揺と再編、イタリア・ドイツにおける国民国家の形成過程、ロシア・オーストリアの皇帝主義の近代化について捉えさせる。	8	
	12章 アジア諸地域の動揺	①西アジアの変容 ②南アジア・東南アジアの植民地化 ③東アジアの動向	(1)西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革、アラブ諸民族の覚醒について把握する。 (2)インドの植民地化とその社会の変容、東南アジア諸国の植民地化の過程を理解させる。 (3)ヨーロッパ諸国の干渉による清朝の動揺と近代化改革、日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解させる。	4	
3学期	1月	13章 帝国主義とアジアの民族運動	①帝国主義と列強の展開 ②世界分割と列強対立 ③アジア諸国の改革と民族運動	(1)帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解させる。 (2)帝国主義時代の欧米列強による世界各国の分割と植民地をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容について捉えさせる。	6
	2月	14章 二つの世界大戦	①第一次世界大戦とロシア革命 ②ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ③アジア・アフリカ地域の民族運動 ④世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ⑤第二次世界大戦	(1)第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらしたことを理解させる。 (2)国際協調を基調としたヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向をつかませる。 (3)中国や東南アジア諸国、インド、西アジア諸国、アフリカの民族運動の展開を捉えさせる。	11
	3月	15章 冷戦と第三世界の独立	①戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の復興 ②冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 ③第三世界の台頭と米ソの歩み寄り ④石油危機と世界経済の再編	(1)第二次世界大戦後、米ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解させる。 (2)中華人民共和国の成立やアジア諸地域の独立の過程を理解させる (3)朝鮮戦争などによる米ソ冷戦の激化から、日本・西欧の経済復興や「雪どけ」の始まりによって国際政治や経済の多極化に向かったことを理解させる。	6
		16章 現在の世界	①社会主義世界の変容とグローバル化 ②途上国の民主化と独裁政権の動揺 ③深刻化する貧困と地域紛争 ④現代文明の諸相	(1)東欧社会主義圏の消滅とソ連邦の解体、ユーゴスラヴィア連邦の解体、グローバル経済の進展を理解させる。 (2)世界で多発する地域紛争と同時多発テロの戦争、紛争解決、軍縮の試みについて理解させる。 (3)科学技術の発展と現代文明の抱える危機、情報技術革命、現代思想・文化の特徴について理解させる。	4

3.評価の観点及び趣旨

観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
	世界の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会を主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を表現できる	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けさせる。

4.評価の方法及び評価資料

- 日々の授業やノートのまとめ、宿題・課題の取り組み状況
- 中間・期末などの定期考査や単元のまとめとして行われる単元テスト
- 夏休みや冬休みなどの長期休業中の課題
- 課題追求学習におけるレポートや発表
- 新聞の活用・図書館での資料（歴史書や写真集など）の活用

これらを学習過程ごとに設定された学習到達目標に照らし合わせて総合的に判断し、評価を進める予定。

